



あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

NO. 53

2008年1月15日

渋谷とみ子の会

埼玉県比企郡嵐山町平沢 254-64

Tel / Fax 0493-62-7997

<http://www.k2.dion.ne.jp/~saiko/shibuya/>

Eメール shibuya97@s4.dion.ne.jp

こどもに大切な地球を残すため、嵐山町でできることは

バリ島で開催された地球温暖化抑止会議では、温暖化は人為的行為の結果であることはほぼ疑いのないことという事実のなかで、温室効果ガスの削減を約束した京都議定書に、アメリカ・中国・インドが、参加できるかが焦点となりました。嵐山町で有効な温室効果ガス削減は、どんなこと？

緑をこれ以上減らさないこと、これ以上開発しないまちづくりをする、不必要にCO₂の排出をしないこと、生ごみを石油で燃焼処理する方法から、堆肥やバイオマスエネルギーに変えるシステムを作ること、嵐山町の農業を農家の方や住民の方も加わって行えること、教育のなかで、こどもに地球環境を守ることを教える等です。議員として、町民として、嵐山町に求めています。

静岡県掛川市では、市民の皆さんと温暖化に対し何ができるか計画を創っています。1995年のCO₂排出量と現在の排出量を計算し、なぜ、増えたのか研究しています。私は、12月議会で町に、地球温暖化対策計画・環境基本計画の策定を求めました。自家用車に頼らない交通システムも必要です。

玉の農業政策として、米・麦・大豆などを4ヘクタール以上耕作していない農家には、補助金を交付しません。嵐山町では多

くの農家が基準に当てはまらず、農業がつぶれないか心配です。



温暖化防止のため、自動車エネルギーを石油ではなく、バイオ燃料に代えるため、とうもろこし・小麦をアルコールにするの

で、輸入飼料が値上がりし、農家経営が苦しくなっています。グローバル企業は温暖化防止の名目のなか、エコ産業として進出し、各国の地域経済を壊して利益を得ています。

工ネルギーと食料は、輸入に頼らない経済をつくる政策、遊休農地を輸入飼料に代わる作物をつくる・自動車エネルギーに使用するバイオ燃料は、稲わら・廃材をリサイクルする、それが農家の生計の一部になれば地域循環型経済ができます。そのような地域産業を興し、地域の資源と農業をまもる嵐山町地球温暖化防止計画をつくり、実行すれば、大幅な環境悪化をくい止め、将来も人が暮らせる地球になるのでは？